

令和五年九月吉日初版作成

神我一体観、自他一体観を  
行動として表現してゆく

高嶋善三郎

## 目 次

- 自分の本当の心の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- すべてが完璧、欠けたるものなしの心境・・・・・・・・・・4
- 神我一体観、自他一体観を行動として表現していく・・4

### お 願 い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブ・サイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯）090-333466019

（メールアドレス）[zensan@peach.ocn.ne.jp](mailto:zensan@peach.ocn.ne.jp)

## 自分の本当の心の姿

『白光誌』九月号の「想いを固めず、自由に祈り」の中で、五井先生は「世界平和の祈りをするところによって、心が安心立命してへる。本当に神の姿がわかってへるー目に見えないー神の姿が心の中でわかってへる。ああ、自分の本当の姿はこうだな、とわかってへる、人間の本当の生き方がわかってへる。自然に分かってくるわけです。」「といわれていますが、もう詳しく詳しく教えてください。という質問がありました。これについて整理していきます。

五井先生や昌美先生のお言葉をもとに整理していきます。

昌美先生によると、祈りにより直観力を取り戻すと、

「自分の目を通して神を見、また自分の耳を通して神の声を聞くことができ、自分の肉体もすべて整っていることが判るようになるのである。さらに、神とつながるチャクラが開くと、神のバイブレーションがあることが判るようになり、感覚が微妙になり、風景も輝いて美しく見えるようになり、また音も味も、妙なる美しいものが感じらわれる。そして、

自分たちだけが素晴らしいのではなくて、すべての生きとし生けるものが全部つながっていることが実感できる。三次元世界にいながらして、神界に生きられるようになるのです。

一瞬にしてすべてが神そのものとなってしまえば、神の心が自分の心として判り、神のなさしめることが自然に判るのである。聴こえてくるものは「絶対に大丈夫。すべてが光に包まれているし、人類の行方はすべて一つである」という神の言葉であり、そして自分もいつの間にか、自らの言葉を通して神の言葉をー人類が本当に行き着く美しい場所を、知らないうちに語っている。即ち神人たちは自分自身の姿を通して究極の真理を示すのである。」「自分自身が完璧に神とつながってー光なのだ、すべては一つなのだ、すべては破壊されることなく、神様の中に包まれて生かされているのだ」ということを実感し、それぞれが神人としての輝かしい生き方を示すことによって、世の中が自然に変わってゆくのであると言われています。」「

これを別の言葉でいえば、自分の意識が光、愛、神の存在そのものとなり、すべてに把われがなくなる状態、「すべてが完璧、欠けたるものなし」としてすべてを受け入れることが出来る心境といえます。

## すべてが完璧、欠けたるものなしの心境

このような観方ができるには、次のことを理解し、確信することが必要です。

神と人間との関係を理解することです。

私達は、宇宙神の分身というべき存在であり、この肉体界を光と愛に満ち満ちた、大調和の世界にして行く使命を与えられているのです。

即ち人間は霊であり、肉体はその一つの現われであって、人間そのものではない。人間とは神の生命の法則を自由に操って、この現象の世界に、形の上の創造を遂げてゆくものであると識り、神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく存在であることを理解することです。

人間とは肉体だけではないのです。神、すなわち宇宙に遍満せる生命が、その創造せんとする力が、個々の人格に分けられたもので、しかも横において繋ぎ合い、協力し合って、その与えられた力を、縦横に、自由無碍に發揮し、形ある世界に完全なる神の姿を画き出そうとしていている者である。神とは宇宙に遍満する生命の原理であり、創造原理であり、

人間とは神の生命を形ある世界に活動せしめんとする神の子なのです。

その人間が何故肉体人間そのものになり下がったのかといえば、霊・

魂・魄として三界に活動しているうちに、肉体外の六官(直感)直覚(神

智)の衰えを見せ、すべてを五官の感覚にのみ頼ることが習慣づけられ、

五官に触れぬものは無いものと思うようになり、人間とは肉体であり、

心(精神)とは、肉体の器官が生み出した働きであるとして、分霊の活

動は分霊そのものとしては感じられぬようになっていったからです。

ところが、分霊と分霊とが本来は神において一つのものであったこと

が幽体に記録され、記録されているのが意識を超えて思われ、肉体にお

いては、はっきり個々に分かれていながらも、お互いが、お互いのこと

を思い合う感情、愛は消えることはなかったのです。2010年私達の

叡智のチャクラが開かれ、宇宙神から直接光を受けることが出来るよう

になることを契機に、その光を受け、お互いが、お互いのことを思い合

う感情、愛が力強く甦り、それを通じて、地球人類は一斉に神聖を復活

しようとしているのです。

**神我一体観。自他一体観を行動として表現してゆく**

次に前述の心境を得るには、神我一体観、自他一体観を行動として有効に表現していく方法を体得することです。

基本的には、『人間と真実の生き方』もとに、それぞれが試行錯誤の体験を通じて身につけていけばよいのです。

五井先生のご著書等から得た悟りへの情報や、法友と交流し、体験を通じて得た実践上の問題点とその解決法の情報は、自分の心を内省し、神聖を顕現していくうえで、極めて参考になります。

そこで私達が参考になる留意点をいくつか整理してみましよう。

**第一にすべての物事について原因結果だけでなく、一瞬一瞬のプロセスにも愛を注ぎ、感謝を注ぎこむことを常にスムーズに実行していくためには、愛と感謝の心についはっきり理解することが大事です。**

愛と感謝の心は、神様に通じている想いであり、これを忘れ、肉体がすべてと考えたため、神に通じない業想念が発生し、自分の本心を取り巻く業想念が形成され、不調和の状態が生じているのです。この愛と感謝の心を取り戻せば、無限なる智慧と能力を持った神聖が私達自身に現われるのです。愛と感謝を注ぐとは、守護の神霊への感謝の心を常に思い起こすことです。「大難を小難にしていたいた」

や「いい体験をさせていただいた」と感謝し、闇を超えようとしている自分を認め、愛することです。これを続けていくと、自分を取り巻く人たちがすべての自然などに感謝ができ、私達はすべてと一体であり、すべては光に包まれていることに気付くことが出来るのです。

**第二に、分別することにより、焦りや心配になり、肉体頭脳の小智や覚をめぐらさないことです。**

常に本心に想念を合わせることです。そうすれば、大宇宙の法則に乗って生きてゆける神の叡智を受け止めることができます。

この宇宙万有は、すべて肉体人間自身の力で創ったものではなく、いかなる生命といえど自然に創られてゆくものであることを、よくよく考えることです。イエスの云う「汝等のうちだれか思い煩いて身の長(たけ)一尺を加え得んや」の真理を知ることです。

**第三に現在の自分の運命や環境は、その内80%が過去の想念による結果ですが、あと20%は今の自分の想念のあり方に任ぜられていることを理解する必要があります。**自分の自由意志と創造力により、何かよいことを創り出してゆへんことが出来る。切り開いてゆへんことが可能で、また、

変えることも自由に行えるのであると言われているのです。

五井先生は、過去への扱われは、今を真剣に生きれば、自ずから消えてゆくことを教えてくださっています。

「今は何か。私の言おうとしている今は、現在の時間的今ではなく、天地縦横、永遠につながっている今である。過去世も現在も未来もすべてを含んでいる今なのである。今を開けば永遠がその中にあるのである。

故に今を真剣に生きれば、(即ち扱われの想念をすべて手放せば)それは空になり、空の中にはやはり永遠の生命が生き切っている。私達の生命のひびきは空からひびいてくるのであり、永遠の生命からひびいてくるものである。

今に真剣であるということは、過去世を現在に生かして、現在を未来に生かし、神の永遠の生命を輝かすこととなるのである。

今が永遠につながっているものは、信じて目の想念、行動を今の一瞬、一瞬に生かしてゆくものは、輝く神性の具現者であり、栄えある真我一体の完全な人間像を築き上げ得るのである。例えばかに悪しき過去世をもつものであるように、今を生かしていることに真剣であれば、過去世の悪行は善行に転回をわけて、生かされてゆく。故に今の一分一秒はゆるがせにできない。今を無駄に消費するものは、生命を殺して、死なせている

ことになる。「『生命光の輝け』』と言われています。

この肉体界三次元の世界と高次元の世界は、波動によってつながっているのです。祈りによって私達の意識波動を高めていけば、五次元の世界に行けるのです。また肉体を保持すれば、五次元の世界の自分をこの三次元の世界に現わすことが出来るのです。高次元の世界には、時間という概念がなく、破壊と創造が同時に行われる世界なのです。ですからこの三次元の世界と高次元の世界は、今という概念でしか繋がっていないのです。今を真剣に生きるとは、自分の意識波動を高め、喜びに満ちた愛一元の五次元世界に上昇することになり、過去の誤る想念が存在できる低い波動圏は自ずと光の中に消えてゆくことになるのです。

**第四に消えてゆく姿は宇宙の真理を認識できた時、消えてゆく姿(実体)のない存在と否定すれば光に還元をわけていくのです。**

私達は目の前に現れる消えてゆく姿に気づいても苦悩をこもなつため、心を痛めるものです。それを手放していくには、消えてゆく姿の中に自分の意識を置いて何故こうなったのかと考えても、消えてゆく姿を手放すことは出来ないのです。手放すことが出来るのは、自分が宇宙の真理を正しく理解が出来てきた時なのです。消えてゆく姿は、自分が宇

宙の真理を正しく理解していなかったために起こったものであり、宇宙の真理を正しく理解できれば、二度と同じ誤ちは起きないからです。

消えてゆく姿は、私達の意識波動が守護の神霊の働きにより、上昇していく時に、高い意識波動圏に存在できない想念波動が、消されてゆくという恐怖が苦悩となって浮き上がって消えていく時に起こる現象なのです。私たちが消えてゆく姿に意識を向けると、再び自分の意識波動は下がり、もとの意識波動圏に戻るようになるのです。

### 第五に愛の現わし方を習得することです。

人は、当の本人自身の苦しみだけでも十分であるのに、家族や友人など自分の周りの苦しみまで背負い込んで苦しんでしまうのです。感情移入によって共に苦しみ、共に喜び、共に分かち合うべきと勘違いしてしまい、正しい愛の現わし方(光を与え合うこと)ができなくなるのです。

それはなぜかということ、「感情移入した分だけ、自分の生命エネルギーを無駄遣いしているのである。周りの苦しみから自分を切り離すことができたなら、自分の新鮮な、迷いのない生命力溢れたエネルギーが愛の心となって、癒しの心となって向けられ、いつまでも解決のめどがつかなかった苦しみに別れを告げ、もう永遠に、苦しみ、悩みに追いつま

れることがなくなり、その瞬間から真理への目覚めが始まり、それ以上苦しまなくても済むようになるからである。「のお言葉のように、周りの苦しみから自分を切り離すことが、解決策になるからです。

「真理に目覚めていない人は、なんでもかでも自分の悩みや苦しみにして受け止めてしまいが、真理に目覚めた人は、何もかも喜びとして受け止めてゆくのである。そこに人生の明暗の分岐点がある。なぜ喜びとして受け止めることが出来るのか、それはいつも必ず自分の心身と神と一体化しようとしているからである。無限なる愛、無限なる喜び、無限なる能力、無限なる幸せにならんとして努め、自分の肉体を神の光輝く器にしようとする喜びに溢れているからである。」(昌美先生の著の『真理―苦悩の終焉』)とされています。

第六に、自分の周りにいる、善良と思われる人たちから神に通じない(肉体人間観の)評価基準を無意識のうちに受けとめてしまうことは極めて危険であることに気付くことです。

その人たちは、悪げもなく肉体人間観の尺度基準で周りの人々を評価しようとしているのです。特にマヌスコミニでは、この傾向が強いです。私達が無意識のうちにこの評価を受け入れてしまうと、その評価に把わ

れ、心の自由が失われてしまうのです。

これらの把われを常に手放さないと、無意識のうちに怒りや悲しみや苦しみが襲ってきて、心が動揺する事態が起こるのです。

これに対して自分の心を常に浄めるための方法は、本心（神聖）の働きを理解し、それを守護の神霊の支援を得て、受け入れればよいのです。

自分の神聖に向かって、「私はすべての怒りや悲しみや苦しみを手放します」と三回宣言して、世界平和の祈りをすれば、本心神聖はその通りに邪念（不安、恐怖、迷い）を浄め去ってくれます。

**第七に本心の本質この働き方を理解することによって本心を自分のものとするのが出来ます。**

本心については、神聖とも表現されているものです。本心（神聖）とは、大自然の根源の働きをする生命を、その智慧能力で、大調和達成のために生かすきってゆく働きです。この神本来の神聖の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界なのです。また本心（神聖）は、私達の肉体人間の外にあるのではなく、チャクラを通して脳天（第七のチャクラ）において、肉体以外の体、つまり幽、霊、神と仮に呼んでい

る各階層の体につながっているのです。

神霊の階層の心の波動が、そのまま素直に肉体の脳天に伝わってきている心を本心（神聖）と呼ばれています。しかし肉体人間の脳天（第七のチャクラ）が神界以外の階層即ち幽界から伝わってきている波動に蔽（おお）われてしまうと、神霊の心そのままの働きはできなくなるのです。そのような時業想念で本心（神聖）を求めても、本心（神聖）を自己のものとして、つかむことはできない。業想念波動を消滅したところから、本心（神聖）は現れてくるのです。そのためには、常にチャクラを活性化し、脳天を蔽う業想念波動を浄めておくことが必要です。

また本心（神聖）の働き方は、私達の意識行動と密接につながっているのです。私達が何を選択するか、また何に意識を集中するかによって、それらを実現するために瞬時にエネルギーを注いでくれることを知ることで、良い選択等をすれば、いい結果が実現されますし、一方神のみ心から離れた選択等をすれば、不調和の姿をそのまま現わします。

以上のほか、私達にとって有益な五井先生、昌美先生のお言葉がいろいろとあることでしょう。それらをお互いが共有化することで、お互いの心を高めることにつながるのです。